

平成27年度 NPO事業 事業報告

特定非営利活動法人古川学人

担当理事:高橋久之、若見正幸

分類	事業名	概要	時期
N P O	被災地 支援事業	1-1 東日本大震災の津波被害を受けた石巻地域等への支援事業。「米俵百俵の精神」で人づくりをするプロジェクト「イシノマキカワノカミ大学」へ参加・協力しました。 石巻カワノカミ大学への参加協力 5/30 イシノマキ・カワノカミ大学 講師:李仁子氏 演題 「「故郷」の活用とコミュニティの創生」 11/1 イシノマキ・カワノカミ大学 紫牟田伸子 先生 演題 「シビックプライド:まちと人のかかわりのデザイン」	通年
		1-2 南三陸スマイルアゲインプロジェクト(SAP) 9/10 歌と笑いの会(共催協力と会場貸し出し、運営サポート) 人数:32名	
	東アジア 交流事業	2-1 吉野作造が中国・朝鮮半島の知識人との交流があったことにちなみ、当館が日本と東アジアの架橋となるべく事業に取り組みました。 5/22 国際学術会議「東アジアにおける想像されたユートピア」 韓国・翰林大学にて大川真館長講演 人数:42名	5/22
		2-2 8/6・7 日韓共同国際フォーラム 「東アジアのナショナリズムの相剋 国際民主主義の可能性 —近代日韓知性の思想と実践」 人数:44名	8/6・7
	キッズ教育 支援事業 (小・中学生対象)	3-1 ・7/28~7/31「夏休み自由研究サポートし隊」。 人数:5名	自由研究 (8月) 小中教育 (無料)
		3-2 ・9/20 ドキュメンタリー映画「みんなの学校」上映会を開催。人数104名	
		3-3 ・県内の小中学校の教育支援。 12/10 宮崎中学校38名、12/19 虹の精保育園研修会10名	
	ヤングジャパン 応援プロジェクト (高校・大学生対象)	4-1 吉野作造がグローバルな視野で活躍する多くの後進たちを育成したことに鑑みて、国際協力などで活躍する若い世代の活動を支援する事業。 1/9 尚綱学院大学 20名見学	通年
	シティズンシップ 普及事業	5-1 明るい選挙推進協会や「選挙+puls」が主催する企画「選挙に行こう」に協力。投票率向上のための応援企画を実施し学生や市民が選挙へ参加し民主主義の普及へ繋げるための活動として実施。 ・1/15・20 古川学園高校 主権者教育 135名見学	通年
	健康増進 事業	6-1 吉野作造記念館の休憩ラウンジを使い、市民が誰でも利用できる開放型の集いの場として提供するとともに食生活相談・啓発に関する事業を実施。公募の上、審査の結果、NPO法人ハッピーート大崎が共催運営。	通年
環境 デモクラシー 事業	7-1 自然や環境について学び、人々のこれからの生活について考えるプロジェクト。大崎地域での講演団体との連携共生を推進活動の展開。 ・4/11 「これからのエネルギーを考える井戸端会議」を実施。30名	通年	
元気発信 「まちカル」 事業 (芸術文化振興)	8-1 「街(タウン)」「文化(カルチャー)」「元気(パワー)」をテーマに掲げ、様々な企画を通じて「人」と「人」との「繋がり」を深め人的ネットワークの構築を中心として地域を活性化するための事業。 ・芸術文化振興事業「わっくわく教室」 講師:姉齒公也氏(造形作家、しあわせ美じゅつ店店主) 内容:おきあがりこぼし作り 人数:39名	わっくわく 9/27 講演 3/21	
	8-2 ・まちなかカルチャースクール講演会 内容:「再生する聖地—チベット文化圏の内と外」 講師:菊谷竜太氏(東北大学専門研究員)		
	8-3 ・「オライの宝」展 内容:個人が所有している「オライのお宝」を記念館の会場を使って展示・公開している展示。今回は大崎市田尻在住の斎藤肇氏のコレクションから山県有朋、大槻盤溪の書軸などを展示。 人数:2,136名	オライの宝 1/10~3/31	
寄附金 募集事業	9-1 当法人の活動を幅広く行うため、年間を通じて寄附金募集。また、寄附者に対しては確認の上、氏名公表を行う他、記念館たよりの送付しました。(平成28年度1,732,500円)	通年	
個人会員 の拡大事業	10-1 これまで以上に運営や事業を幅広く行うため個人会員の拡大をしました。	通年	

平成27年度 吉野作造記念館指定管理事業 事業報告

特定非営利活動法人古川学人

分類	事業名	実績概要	時期
顕彰型	1 企画展	1-1 移動企画展「賀川豊彦と吉野作造-貧しき者、弱者のために」 展示会場:賀川豊彦記念松沢資料館(東京) 人数:978名 ※大川真館長によるオープニング講演会 「本当の人間らしさとは何か」を実施。 展示会場:徳島市ヒューマンわーくびあ(徳島) ※経費は主催者負担により実施。 人数:95名	東京 4/28~6/27 徳島 9/28~10/9
		1-2 前期企画展「戦後70周年記念 日本国憲法の誕生と吉野作造」 オープニング講演会:「日本国憲法の間接的起草者 鈴木安蔵氏 —吉野作造氏の指導ありて」 講師 立正大学名誉教授 金子 勝 氏 人数:975名	展示 6/7~8/2 講演 6/7
		1-3 後期企画展「戦後70周年記念 井上ひさしと戦後日本の平和」 記念講演:「井上ひさしにとっての『人間』と『戦争』 —日本文学の定義を変えた作家」 講師:東京大学名誉教授 樋口 陽一 氏 人数:1,687名	展示 10/11~12/27 講演 11/3
	2 吉野作造 講座	2-1 前期「自由民権と宮城」 講師:佐藤憲一先生(元仙台市博物館館長) 内容:第1回 千葉卓三郎と五日市憲法草案 :第2回 宮城の自由民権運動 人数:53名	前期講座 6/14、6/24
		2-2 後期「集団的自衛権を吉野作造から考える」 講師:大川真(吉野作造記念館館長) 内容:いま問われている集団的自衛権を吉野作造の論説を 精読しながら一緒に考えました。なお、好評につき 再講座を3/27に開催。 人数:77名	後期講座 11/22、12/13 再講座 3/27
		2-3 郷土史講座「みやぎの先人 吉野作造」 講師:小嶋翔(当館研究員) 会場:せんだいメディアテーク 人数:38名	郷土史講座 12/6
	3 テーマ展示	3-1 新公開資料展 唐紹儀書額「舒卷忘食」 内容:1918年に唐紹儀から吉野作造に贈られたと みられる劣化が著しい書額を修復し展示。 (公益財団法人 朝日新聞文化財団助成事業、助成額30万円) 人数:3,286名	8/4~12/27
		3-2 ミニ企画展 「吉野作造記念館20周年の歩み」 人数:8990名	~12/27
		3-3 ミニ企画展「民本主義100周年」展 内容:吉野の民本主義をめぐって 当時どのような議論が行われたのかを紹介。 人数:2136名	1/10~
	4 公募論文 募集事業 (第4回吉野作造 研究賞作品募集、 記念講演会)	4-1 H26年7月31日 公募締切 H27年10月25日 授賞式・受賞者講演会開催 受賞者:武藤秀太郎氏 受賞論文:「吉野作造と中国知識人 —キリスト教青年会(YMCA)との関連を中心に」 審査委員 宇野重規(東京大学社会科学研究所教授) 村井良太(駒澤大学法学部教授) 大川 真(当館館長)	10/25 記念講演
	5 各種 出版事業	5-1 『吉野作造研究 第12号発行』 300部発行。	アマゾン 販売開始 7月~
		5-2 アマゾンでの書籍販売開始(東アジア交流思想史、蔵書資料目録)	
	6 資料収集・保存 ・研究調査等	6-1 吉野博士に関する資料収集・研究調査、 資料保存・管理・展示に関わる業務。	通年

平成27年度 吉野作造記念館指定管理事業 事業報告

特定非営利活動法人吉川学人

分類	事業名		実績概要	時期
発信型	7	教育普及事業	7-1 出前講座・講演事業(外部施設での学校・団体向け) 目標：出前講座40件、学校関係見学20件 実績：出前講座26件、学校関係見学11件 人数2,619名	通年
	8	第9回吉野ネットワーク交流事業人材育成研修会	8-1 テーマ「日本のデモクラシー、生誕百周年」 学生の人材育成と吉野研究者のネットワーク構築を目的とした合宿研修会。 基調講演 東京大学教授 苅部直氏 内容：講義「吉野作造と福田徳三」 講師 新潟大学経済学部准教授 武藤秀太郎氏 講義「戦後70年目の日本研究—アメリカ、ヨーロッパ、日本」 講師 慶應義塾大学総合政策学部准教授 清水唯一朗氏 成果報告会(一般公開) 人数：講師9名、学生18名、一般聴講83名	9/4～9/6
	9	第16回読売・吉野作造賞受賞者講演会	9-1 中央公論新社と読売新聞が主催で行っている「読売・吉野作造賞」。東京での贈賞式出席と受賞者の記念講演会を当館にて開催。 講師：福永文夫氏(獨協大学教授) 演題：「戦後日本の出発—占領と民主主義」 受賞作：『日本占領史 1945-1952』中央公論新社 講師：木村幹氏(神戸大学教授) 演題：「日韓歴史認識問題とは何か」 受賞作：『日韓歴史認識問題とはなにか』ミネルヴァ書房 人数：70名	贈賞式7/10 福永氏講演10/31 木村氏講演11/14
	10	記念館だより発行	10-1 実施事業の報告とこれからの事業紹介。 全20頁、2色刷り、発行部数1200部を発行。	4月発行
	11	インターネット活用	11-1 当館ホームページ、フェイスブック、ツイッター、ユーチューブ等での継続した広報活動の実施、寄附金等の募集にも活用しました。	通年
活用型	12	市民交流事業	12-1 フリーマーケット 内容：当館前広場を活用したワンコインフリマを開催。出店10店舗。	5/5
			12-2 GWイベント 内容：古川高校合唱部のコンサート、昔のあそび、マジックショー等。 人数：869名	5/5
			12-3 クリスマス会 内容：コンサート、寸劇、吉野とクリスマスを展示等で紹介。 人数：484名	12/20
			12-4 入館無料キャンペーン 内容：入館無料で常設展の見学ができるキャンペーンを実施(1/29のみ)。 人数：37名 生誕記念コンサート 内容：やさしい畑(大正琴)、コーラス夢(混声合唱) ラス フラウティスタス デ マジョーブ(リコーダー) 人数：75名	無料キャンペーン1/29 生誕コンサート1/30
13	サービス向上事業	13-1 YOSHINOサポーターの募集 内容：当館の活動を応援するYOSHINOサポーターを募集。 加入団体には社名を広報物に掲載 実績：Aコース10社、Bコース6社	通年	
		13-2 友の会会員の募集 内容：当館を応援する全国組織としての友の会会員を募集。 実績：28名	通年	
		13-3 アンケートの実施 内容：企画展、講座、市民交流事業、年度末アンケート等を実施。 集計数：235名	通年	
		13-4 学習スペースの貸し出し事業 内容：学生や市民の勉強、研究の場を提供。	通年	

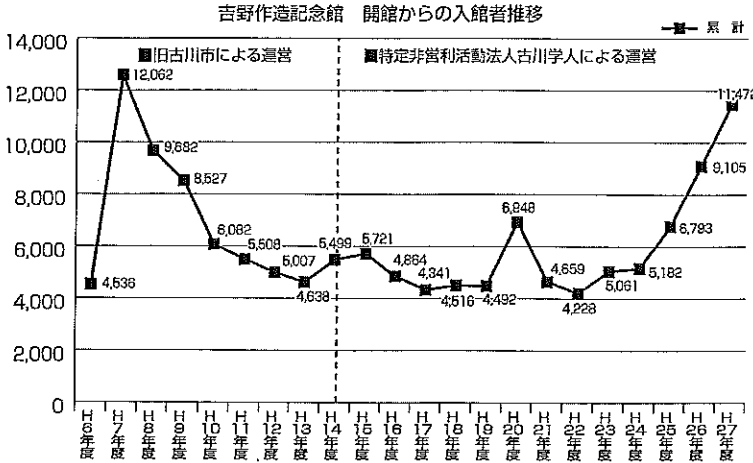
平成27年度 吉野作造記念館入館者数

11,472名

(平成27年4月1日～28年3月31日)

うち出前講座 2,234名 開館の翌年1996年度に次ぐ多くのお客様にご利用頂きました。ここに謹んで御礼申し上げます

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,051	1,470	637	1,407	819	1,144	598	828	1,285	749	687	817



メディアでの記念館紹介

87件

(平成27年4月1日～28年3月31日)

おもな記事掲載

2015.4.1	読売新聞中部版「吉野信次 足跡再評価の動き」
2015.4.18～	秋田魁新報「望嶽桜の夢 滝田禎隆と近代文学者 吉野作造」(連載)
2015.5.29	夕刊フジ「ライス+吉野作造=ライ造くん!？」
2015.6.13	毎日新聞「吉野作造と鈴木安藏二人の交流史～」
2015.9.29	朝日新聞「吉野作造に贈った『舒卷忘食』 中華民国総理の書、展示」
2015.12.3	蘋果日報(台湾)「国立交通大学(台湾)で大川館長が講演」
2015.12.19	大崎タイムス「作造は『宮城の先人』郷土史講座」
2016.2.1	朝日新聞(各駅停話:573) 東北新幹線:12 古川 人の世に逆境なんてない
2016.2.17	朝日新聞「民主主義100周年 デモクラシー考える」

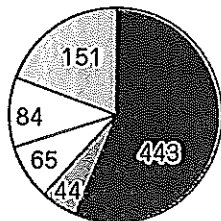
平成27年度 吉野作造記念館 アンケート集計結果

平成27年度に実施したアンケート内容の一部をご紹介します。

当館では今後も常時ご意見・ご感想等を受け付けておりますので、お気軽に声をお寄せください。

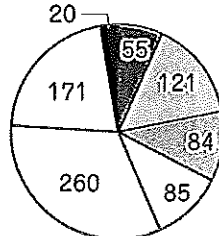
●集計数 **235名** (内訳:企画展、講座、GWイベント、クリスマス会、各種講演会) ※平成28年3月23日時点

当館の情報を何でお知りになりましたか?



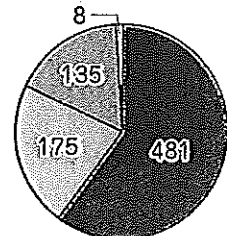
■チラシ ■広報誌 □新聞 Web ■その他

年齢を教えてください。



■10代以下 ■20~30代 ■40代 □50代 ■60代 ■70代以上 ■無回答

お住まいはどちらですか?



■大崎市 ■県内 ■県外 □無回答

お客様からのご意見・ご要望および改善対策 ※抜粋

見学やイベントに参加してみたのご感想

- 日本国憲法の源流は自由民権運動や大正デモクラシーの時代にその萌芽があったのですね。とても感動しました。多くの人に見てもらいたいです。 (企画展)
- 子供と一緒に来て始めは落ち着きなく走り回っていた子がコンサートをみていると歌やクイズに夢中になってきて色々な経験ができました。 (クリスマス会)
- 参院選より18歳以上の若者が有権者に仲間入りするので立憲主義の精神、より広く周知するようご尽力願いたい。 (年度末アンケート)
- 日本各地の記念館をまわっていますが、御記念館は中でも特筆すべき活動を多々行っており、刮目に値すると思っています。 (年度末アンケート)
- 吉野作造という立派な方が居られるのに、私を始めあまり関心が無かったと痛感しております。これからは市としてももっとPRして学校教育にも取り入れ身近に気軽に浸透していくよう願っています。 (生誕記念コンサート)

お客様のご要望に対する改善について

- 災害時の被災者支援について、吉野先生の志を生かす提言を期待する。
改善 国連防災世界会議パブリックフォーラムにて、吉野作造の精神を伝えました(1頁参照)。
- 年に1回くらい仙台市内(メディアテーク等)中心部で、講座・講演会を行って欲しい。
改善 2015年の12月に郷土史講座を実施しました(8頁参照)。
- 参加するたびに意義のある団体と感じています。職員の皆さんの活躍に敬意を表します。別室で観覧できる時のマイクの調整は職員の方の確認をお願いします。
改善 今後機材トラブルが発生しないよう予防と対策、対応を徹底します。